



## 《 日豪交流シンポジウムに参加して 》



MoWSA で働くボランティアは、社会貢献に参加することで楽しさや幸福を感じる度合いが高いこと、またそのボランティアと話せる機会の多い人々は幸福度が増すと報告されています。

栄養価の高い食事を提供し、健康をサポートする側と美味しい食事と共に社会との繋がりを感じられ自立した生活を送れるように支えられる側には有益な繋がりがあります。

日本と違い、国や州の政策の規定内で行われる MoWSA の活動は法的に守られ、財源の確保があることは羨ましいことであり、日本も行政として丸ごと取り入れてもらいたい政策です。

MoWSA に習い、私達みのりが続けてきた食事サービス事業は、規模の違いはあるけれど、地域住民同士お互い支え合いの下、有意義な活動であったと思います。

今後は社会でボランティアの認知度を上げていき、またボランティアの意義や幸福感を高めるよう努力が必要です。

人の為、自分の為に活動できる場所であり、たくさんの価値が存在するコミュニティみのりを存続させていきたいです。

理事長：吉川ひとみ

.....  
オーストラリアの配食サービスグループと日本の団体との交流が40年も続いていることは関係者の努力の結実でもと思います。40年の歴史の中で両国共に高齢化の問題も出てきましたが、オーストラリアの活動の方がまだ若い世代が中心のようですし、ボランティアの対応についてもみのりとは差があるようです。

まず、オーストラリアは、ボランティアが行動範囲、活動時間などがかなり余裕を持って行われています。しかし、みのりでは会食会ボランティアは、5~7時間拘束され、そのことから年齢的にもきびしくなり退会が始まっています。余裕ある参加形態への緩やかな移行も必要と思えます。

また、オーストラリアでは、お弁当配達担当者が各お宅で2分位は会話して、近況報告や世間話などで交流し、この時間がお互いにとって意義ある楽しみになっているそうです。そして、ボランティアの幸せ度を数値検索する公的な指標があり、その幸せ度は高いとのことです。

私達もボランティアを楽しむゆとり、自分が健康でいる為の元気の素になっているといった意識がもっと出てくるといいと思いました。

野口 貴美子

